

令和5年度シラバス

Ⅱコース3年（理系）

日本大学東北高等学校

目 次

学校シラバス	… 1
年間行事計画Ⅱ コース3年	… 2～ 4
現代文B	… 5～ 6
古典B	… 7～ 9
倫理	… 10～ 14
数学Ⅲ	… 15～ 18
数学B	… 19～ 21
物理	… 22～ 24
化学	… 25～ 29
生物	… 30～ 32
体育	… 33～ 36
コミュニケーション英語Ⅲ	… 37～ 39
英語表現Ⅱ	… 40～ 41
英語表現Ⅱ演習	… 42～ 43
情報の科学	… 44～ 46
総合的な探究の時間	… 47～ 48

学校シラバス

校訓

- 1 忠恕の心：まごころを持って相手の心をおもいやること。
- 2 自主創造：自主的に学び、考え、広く世界的な視野を持つと共に、新しい自分、心豊かな自分を創造すること。
- 3 真剣力行：強い意志を持ち、目的に向かって全力を尽くすこと。

本年度の努力目標

- 1 奉仕と思いやりの心を持つ
- 2 新校舎を大切に学ぼう
- 3 対策をして楽しもう

取り組み項目	具体的な内容
キャリア教育, 教科指導を計画的に推進し, 学力の定着と向上を図り, 生徒の進路目標を達成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 シラバスを作成し, 生徒・保護者へ提示する。 2 進路ガイダンス等の各種説明会を通じて進路情報を提示し, 幅広いキャリアビジョンと確かな学力を身に付けた上で進路を決定する意識を構築する。 3 卒業前の3年生に, 学外からの出前講座, 教員による校内講座を行い, 幅広い教養を身に付ける。 4 日本大学工学部との高大連携事業を展開する。
国際理解教育を推進し, グローバル化社会に対応できる力を身に付ける。	<ol style="list-style-type: none"> 1 ネイティブ教員によるTT授業で, 英語の4技能の育成を図る。 2 課外講座で, 英会話講座を実施して語学力の育成を図る。 3 語学力育成とともに国際理解を深めることを目的に, ケンブリッジ大学・オーストラリア海外語学研修を実施する。(令和4年度は派遣中止)
自主的・主体的な学習への取り組みを通して, 社会に貢献できる人材を育成する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 自学室・自習室・サポート室を活用し, 生徒が自ら学ぶ姿勢を育成する。 2 ICTを利用したアクティブ・ラーニング授業を実践する。 3 基礎学力到達度テスト対策に, 春期特別指導を実施する。 4 大学進学に向けて, 各種模擬試験の活用と夏期進学補習の充実を図る。 5 図書館を利用して, 生徒が自ら問題解決の糸口を見つけ出す姿勢を育成する。
学校行事や課外活動を通して, 人間的成長を促し, 円満な人格形成を図る。	<ol style="list-style-type: none"> 1 修学旅行を通して, 団体行動や平和について学習する。 2 部活動を通して, 心身を鍛え自主性や協調性を育成する。 3 文化祭などの学校行事を通して, 自主性や創造性, 協働性を身に付けるとともに, 仲間との達成感を共有する。 4 芸術鑑賞会を通して, 広く芸術に触れ, 親しむ心を育成する。 5 身だしなみ向上週間の活動を通じて, 自律心を育成する。
学校の安全管理を徹底するとともに, 安全教育を推進する。	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校安全計画, 防災マニュアル(安全管理マニュアル・衛生管理マニュアル・防火管理マニュアル)を実践する。 2 火災や地震を想定した避難訓練, および救急救命講習会や避難器具使用講習会等を実施する。 3 地歴公民や保健体育の授業, ホームルーム活動を通じて, 安全や健康について学習する。 4 交通安全教室, スマホ安全教室等を実施し, 生徒の危機管理意識を育成する。

◇年間行事計画

Ⅱコース3学年

	指導内容・行事	指導のねらい
4月	二者面談	・生徒間、教員との信頼関係の構築
	基礎学力到達度テスト	・基礎学力の定着、自己分析
	進路希望調査	・自己理解と目標設定
	登校指導	・基本的生活習慣の確立
	シェイクアウト訓練	・危機管理意識の醸成
	ベネッセ総合学力テスト	・志望校までの距離を知る ・学習活動の振り返りと学習課題の設定
	学級懇談会	・教員—保護者の信頼関係の構築
5月	校内体育大会	・健やかな心身の育成 ・良好な人間関係の構築
	保護者参観授業	・保護者への情報公開 ・家庭との連携強化
	身だしなみ向上週間	・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	1学期中間試験	・計画的学習習慣の確立 ・既習事項の定着度の測定
	英検	・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ
6月	ベネッセ共通テスト模試	・基礎学力の定着度を測る ・弱点、苦手分野の把握 ・学習計画の立案、課題の設定
	身だしなみ向上週間	・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	文化講演会	・豊かな感性の育成 ・広い視野の獲得
	数検、漢検	・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ
	1学期期末試験	・計画的学習習慣の確立 ・既習事項の定着度の測定
7月	アカシヤ祭	・自己理解を深める ・創造力、表現力の伸長 ・他者と協働する力を育む
	ベネッセ総合学力テスト	・志望校までの距離を知る ・学習活動の振り返りと学習課題の設定
	進学説明会	・入試に関する情報の収集 ・受験に向けての意識高揚
	三者面談	・家庭との連携 ・信頼関係の構築

		<ul style="list-style-type: none"> ・現状の理解と目標の設定
	夏期進学講座	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・学習習慣の確立
	勉強会	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考力の伸長 ・既習事項の理解を深める ・学年を越えた交友関係の構築
8月	夏期進学講座	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・学習習慣の確立
	夏期進学特別補習	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の伸長 ・弱点、苦手分野の克服
	全統共通テスト模試	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた課題設定 ・志望校検討と合格への課題設定
	小論文模試	<ul style="list-style-type: none"> ・表現力、読解力、文章を書く力の伸長
	全統記述模試	<ul style="list-style-type: none"> ・応用力、実践力の測定 ・記述力を高める
9月	進路希望調査	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望の確認
	服装頭髪指導	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識を高める
	ベネッセ駿台共通テスト模試	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた課題設定 ・志望校検討と合格への課題設定
	保護者参観授業	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への情報公開 ・家庭との連携強化
	基礎学力到達度テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着、自己分析
10月	校内体育大会（運動会）	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな心身の育成 ・良好な人間関係の構築
	2学期中間試験	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的、計画的学習への取り組み ・学習活動の成果を測る
	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	ベネッセ駿台記述模試	<ul style="list-style-type: none"> ・応用力、実践力を測る ・記述力を高める
	芸術鑑賞会	<ul style="list-style-type: none"> ・文化、芸術への造詣を深める
	英検、漢検	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・資格取得によるキャリアアップ
11月	ベネッセ駿台共通テスト模試	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた課題設定 ・志望校検討と合格への課題設定
	身だしなみ向上週間	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の高揚 ・自己管理能力の育成
	二者面談	<ul style="list-style-type: none"> ・志望校の検討 ・志望校合格への課題設定
12月	2学期期末試験	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的、計画的学習への取り組み ・学習活動の成果を測る

	校内大学入学共通テストプレ	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた実践演習 ・志望校合格への課題設定
	特別授業	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストに向けた実践演習 ・志望校合格に向けた実践演習
	出願校検討	<ul style="list-style-type: none"> ・志望校の検討 ・志望校合格への課題設定
	冬期進学特別講座	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テスト（入試）に向けた総仕上げ
1月	大学入学共通テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の集大成！
	三者面談	<ul style="list-style-type: none"> ・出願校の検討および決定
2月	個別試験対策特別講座	<ul style="list-style-type: none"> ・私大入試、国公立大2次試験に向け学力を高める。
3月	卒業証書授与式	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の振り返り ・これからの目標の確認

科目	単位数	対象学年	対象クラス
現代文B	3	3	Ⅱコース

教科書名 現代文B(数研)

副教材名 入試につながる現代文(ラーンズ)

現代文 共通テスト+センター試験国語過去問題(尚文出版)

同音同訓漢字帳(いいずな書店) クリアカラー国語便覧(数研出版)

1. 科目目標

1・2年生の段階で身に付けた基礎的な読解力を基に、演習の量を増やすことによって大学入試共通テストおよび2次試験・私大入試に対応した実践力を身につける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 ～ 7	1. 【評論】(教科書) 2. 【小説】(教科書) 3. 「入試につながる現代文」 4. 模試事前指導および解説 【定期試験】 ①同音同訓漢字帳 ②読解問題	〔目標〕 論理的な文章と文学的な文章の読解法を再確認する。 〔内容〕 ①教科書(評論文)を利用して、主題の把握、論拠の整理、論理展開の整理方法を学ぶ。 ②教科書(小説)を利用して、登場人物の心情表現、比喩表現、表現効果等を説明する力を養う。 ③「入試につながる現代文」を利用して、入試頻出著者の文章で演習し、対応力を養成する。 ⑤模試を利用し、実践力を身につける。
		【課題・提出物】 適宜提出物を課す。	
		【第1学期の評価方法】 定期テストの平均点×70%+平常点(授業態度・提出物)30%	

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 ～ 10	《演習》 「共通テスト+センター試験国語過去問題」を利用	〔目標〕 論理的な文章と文学的な文章の読解法を再確認する。 〔内容〕 大学入学共通テスト予想問題や模試を利用し、実践力を身につける。
	10 ～ 12	【定期試験】 ①同音同訓漢字帳 ②読解問題	
		【課題・提出物】 適宜課題を課す。	
		【第2学期の評価方法】 定期テストの平均点×80%+平常点 20%	

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	【大学入学共通テストまで】 《演習》 「大学入学共通テスト問題集」を利用	〔目標〕 問題演習を通じて実践力の養成を図る。 〔内容〕 二次試験や私大入試に向けた演習と解説を授業とする。
	2	【大学入学共通テスト後】※文系のみ 《演習》	
	【課題・提出物】		適宜提出物を課す
【第3学期の評価方法】		定期テストの平均点×80%+平常点(授業態度・提出物)20%	
【年間の学習状況の評価方法】 提出物の提出状況、授業態度などによる自学自習習慣			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	文章を読む力を進んで高めるとともに、作品についての理解や関心を深めようとしている。	授業態度・各種試験
思考・判断	文章を読んで思想や感情などを的確に捉え、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度・各種試験
技能・表現	相手や目的・意図に応じ、筋道を立てて文章を書いて、自分の考えを豊かにしている。	各種テスト・提出物
知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	各種テスト・提出物

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

1年次に確認した「3つの力（類比・対比・因果）」を、2年次には教科書・模試等で活用し、解法として定着させてきました。設問に対してどのようなプロセスで解答を導き出すか、論理的に文章を捉えることができるかが大切です。文章が変わったとしても、きちんと論理的思考力、「3つの力」が身につけていれば対応できます。3年次には演習が多くなりますが、ただ量をこなせばよいというのではなく、解答のプロセスを言葉で説明できるようにしてから、多くの文章に取り組むようにしてください。また、現代文で大切なのは復習です。模試等は解いたら終わりではなく、必ず間違えた問題を解き直し、言葉で説明できるようになるまで復習しましょう。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
古典B	2	3	Ⅱコース理系

教科書名 古典B（大修館）

副教材名 古文攻略マストアイテム（桐原書店） 解法古文単語 350（数研出版）

精選漢文（尚文） これからの古典文法(尚文出版)

大学入学共通テスト準備演習 古文・漢文(数研出版)

共通テスト国語対策問題集 標準から実践へ 古典編三訂版（桐原書店）

1. 科目目標

1・2年生の段階で身に付けた読解のための基礎力を基に、演習を繰り返すことで大学入学共通テストおよび2次試験・私大入試に対応した実践力を身につける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 ～ 7	1. 【古文】（教科書） 2. 【漢文】（教科書） 3. 「大学入学共通テスト準備演習」 4. 模試事前指導および解説 ● 《実践力の養成（1）》※特指 ◆ 模試事前指導および解説 ◆ 基本事項の再確認 【定期試験】 ①古語単語・漢文語彙 ②文語文法に関する知識 ②漢文句形や文構造に関する知識 ②読解問題	【古文】 〔目標〕 基本的文法事項の確認や読解の基本を再確認する。 〔内容〕 ①主な助動詞・助詞の用法を軸に基本的文法事項を整理する。 ②文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。 【漢文】 〔目標〕 基本的句法の確認や読解の基本を再確認する。 〔内容〕 ①主な句形や漢文の読み方を再確認する。 ②文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。 【特指】 〔目標〕 問題演習を通じて実践力を身につける。 〔内容〕 模試や副教材を利用し、実践力を身につける。
		【課題・提出物】	適宜提出物を課す。
	【第1学期の評価方法】	定期テストの平均点×70%+平常点(授業態度・提出物)30%	

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 ～ 10	1. 【古文】【漢文】《演習》 「共通テスト国語対策問題集」を利用 ● 《実践力の養成（2）》※特指 ◆ 模試事前指導および解説 ◆ 基本事項の再確認 【定期試験】 ① 古語単語・漢文語彙 ② 文語文法に関する知識 ② 漢文句形や文構造に関する知識 ② 読解問題	【古文】 〔目標〕 様々な古文に触れ、基本的文法事項の復習と並行して大学入学共通テスト・2次試験に対応できる読解力を身につける。 〔内容〕 ① 主な助動詞・助詞の用法を軸に基本的文法事項を整理する。 ② 文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。 【漢文】 〔目標〕 様々な漢文に触れ、基本的文法事項の復習と並行して大学入学共通テスト・2次試験に対応できる読解力を身につける。 〔内容〕 ① 主な句形や漢文の読み方を再確認する。 ② 文章を正確に読解し、登場人物の人物像や心情を読み取る。 【特指】 〔目標〕 問題演習を通じて実践力を身につける。 〔内容〕 模試や副教材を利用し、実践力を身につける。
	10 ～ 12		
		【課題・提出物】	適宜課題を課す。
		【第2学期の評価方法】	定期テストの平均点×80%+平常点 20%
3 学 期	1	【大学入学共通テストまで】 《演習》「共通テスト国語対策問題集」を利用	【古文】 〔目標〕 問題演習を通じて実践力の養成を図る。 〔内容〕 二次試験や私大入試に向けた演習と解説を授業とする。 【漢文】 〔目標〕 問題演習を通じて実践力の養成を図る。 〔内容〕 二次試験や私大入試に向けた演習と解説を授業とする。
	2	【大学入学共通テスト後】 《演習》過去問などを適宜使用	
		【課題・提出物】	適宜提出物を課す
		【第3学期の評価方法】	定期テストの平均点×80%+平常点(授業態度・提出物)20%
【年間の学習状況の評価方法】 提出物の提出状況、授業態度などによる自学自習習慣			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	授業態度・各種試験
思考・判断	古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	授業態度・各種試験
技能・表現	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、身に付けた知識を的確に使用し、現代語で表現できる。	各種テスト・提出物
知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身に付けている	各種テスト・提出物

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

古典学習ではまずは知識の習得が大切です。古語単語・古典文法(助詞、助動詞)・漢文句形・漢文の語彙・漢文の文型などをしっかりと身につけてください。その上で、演習問題などを通して文脈を把握し、設問に応じて解答する技能を身につけてほしいと思います。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
倫理	2	3 学年	Ⅱコース理系

教科書名 高等学校 新倫理 新訂版 (清水書院)

副教材名 用語集 倫理 新訂第5版 (清水書院) 進研 WINSTEP 倫理 改訂版 (ラーンズ)

1 科目目標

- 自我の目覚める高校時代は人間や社会について関心を持ち、人生観・世界観についての思索を深め、人間形成への大きな一歩を踏み出す時期である。その時期に「目に見えない大切なもの」を求め、「人間とは何か」「人間としていかに生きるべきか」という課題を探究し、生徒自身が世界観・人生観を形成していく。
- 思想は、歴史的背景と前時代の課題を受けて成立するものであり、歴史的・有機的な関連性がある。先哲の思想を学ぶことで、物質文明の繁栄が謳われる反面、人間性や人間の尊厳の喪失が指摘される今日の社会において、人間とは何か、自分はどうかあるべきか深く探究していく。
- 教科書にとらわれることなく、幅広い知識を習得するために資料集や演習問題に多く触れ、大学入学共通テストに対応できる力を養っていく。
- 演習問題をこなし、実践力を養う。(定期試験の中にも共通テストや私大の過去問題等を活用する)

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か 第2章 青年期の課題と自己形成 1 青年期の意義 2 自己の理解に向けて 3 豊かな自己実現のために	○最も盛んな時期である高校生の年代を通して青年期の特徴について理解する。 ○青年期の特徴を捉えるとともに、アイデンティティの確立が個性形成の第一歩であることへの理解を深める。 ○心理的な働きを通して、社会に適応することと人格形成の重要性を理解する。
	5	第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学 1 神話から哲学へ 2 自然哲学の誕生とソフィスト 3 真の知への道ーソクラテス 4 理想主義的なあり方ープラトン 5 現実主義的なあり方ーアリストテレス 6 幸福をめぐる問いーヘレニズムの思想	○哲学とは何か。私たちは自己の人生を有意義なものとするために、どのような生き方をすべきか考え、実践していかなければならない。先哲の思想を学習し、自己の生き方、あり方を考える。 ○ソクラテスに始まるギリシャ思想を通じて、愛知の精神こそが哲学の出発点であることを理解する。

		1 学期中間試験	
	6	<p>第2章 人生における宗教</p> <p>第1節 キリスト教－愛の宗教</p> <p>1 ユダヤ教</p> <p>2 イエスの思想</p> <p>3 世界宗教への展開</p> <p>第2節 イスラーム－啓示と戒律の宗教</p> <p>第3節 仏教－智慧と慈悲の宗教</p> <p>1 バラモン教</p> <p>2 仏陀の思想</p> <p>3 仏教のその後の展開</p> <p>第3章 人生の知恵</p> <p>1 孔子と儒家の思想</p> <p>2 儒教の展開</p> <p>3 道家の思想</p>	<p>○「原罪」と「救い主による贖罪」、「復活信仰」など、キリスト教の基本的な考え方について理解する。</p> <p>○イスラームの基本的な考え方や理念について学び、キリスト教やユダヤ教の類似点や相違について理解する。</p> <p>○仏陀の生涯と、その基本的な考え方について理解する。</p> <p>○孔子の思想の中心概念である「仁」と「礼」について理解し、現代生活においてこれらを実践することの意義について考える。</p> <p>○孔子が目指した理想的な社会について理解し、現代社会においても政治に求められる道徳の普遍性について考える。</p>
	7	1 学期期末試験	
<p>【課題・提出物】</p> <p>中間・期末試験後にノート提出（配布プリントの確認を含む）</p>			
<p>【1学期の評価方法】</p> <p>①定期試験の成績</p> <p>教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト・センター試験の過去問・私大入試の過去問からも出題する。</p> <p>②学習態度の平常点（1学期のみ30%）</p> <p>授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。</p> <p>課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。</p>			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<p>夏期進学補習</p> <p>第3編 現代社会と倫理</p> <p>第1章 現代の倫理的課題</p> <p>第2章 現代に生きる人間の倫理</p> <p>第1節 人間の尊厳</p>	<p>○人間尊重の光と影を見据えながら、真の意味での人間の尊厳について考え、理解する。</p>

	<p>1 自己肯定の精神 2 宗教観の転換 3 人間の偉大と限界</p> <p>第2節 自然や科学技術と人間とのかかわり</p> <p>1 自然への目と科学的なものの見方 2 事実と経験の尊重 3 理性の光</p> <p>第3節 民主社会における人間のあり方</p> <p>1 民主社会の原理 2 人権思想の展開</p> <p>第4節 自己実現と幸福</p> <p>1 人格の尊重と自由 2 自己実現と自由 3 幸福と功利 4 創造的知性と幸福</p> <p>第5節 個人と社会とのかかわり</p> <p>1 人間性の回復を求めて－社会主義 2 人間存在の地平－実存主義 3 他者の尊重 4 社会参加と他者への奉仕</p> <p style="text-align: center;">2 学期中間試験</p> <p>第6節 現代における理性の問題</p> <p>1 生命への畏敬 2 理性主義の見なおし 3 言語論的展開 4 科学観の転換</p>	<p>○モンテーニュやパスカルの思想を通して、モラリストが後の思想に与えた影響を理解する。</p> <p>○ベーコン、デカルトの思想を正しく理解する。</p> <p>○近代科学が成立する背景にルネサンスや宗教改革が大きな役割を果たしていることを理解する。</p> <p>○ホブズ・ロック・ルソーの社会契約の違いを理解する。</p> <p>○カント・ヘーゲル・功利主義・プラグマティズムの思想を手がかりに、自己実現と幸福について考え、理解する。</p> <p>○マルクス・エンゲルスの思想を、それ以前の社会主義思想と比較することで、その内容を考察し、理解する。</p> <p>○先哲の思想を手がかりに、個人のあり方と社会との関わりについて考える。</p> <p>○ウィトゲンシュタインの思想を通して、分析哲学が近代の人間観・世界観に与えた影響を理解する。</p>
11	<p>第4編 国際社会に生きる日本人の自覚</p> <p>第1章 日本の風土と外来思想の受容</p> <p>第1節 日本の風土と伝統</p> <p>1 日本の風土と人々の生活 2 古代の人々の考え方</p>	<p>○我々の生きている日本という風土が、人と自然の関わりにおいて持つ特殊性について理解する。</p> <p>○日本人として、伝統的文化を振り返りながら、そこに込められた人々の知恵を自覚する。</p>

12	第2節 仏教の伝来と隆盛 1 仏教の移入－古代仏教の思想 2 仏教の土着化－鎌倉仏教の思想 第3節 儒教の日本化 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学 第4節 日本文化と国学 1 古典美の再発見 2 国学 第5節 近世庶民の思想 1 都市庶民の思想 2 農民の思想 2学期期末試験	○最澄・空海の思想の相違点と類似点を正しく理解する。 ○平安仏教と鎌倉仏教の違いを考察し、正しく理解する。 ○中国で生まれた儒教が、外来思想として移入し、その後江戸時代に儒学として日本化され、現代の生活に影響を与えていることを正しく理解する。	
	【課題・提出物】 中間・期末試験後にノート提出（配布プリントの確認を含む）		
【2学期の評価方法】 ①定期試験の成績 教科書を中心とした知識・理解の確認と共に、大学入学共通テスト・センター試験の過去問・私大入試の過去問からも出題する。 ②学習態度の平常点（20%以内） 授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。 課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	冬期進学補習・共通テスト対策講座 第6節 西洋近代思想の受容 1 西洋文明との接触 2 啓蒙思想と民権論 3 キリスト教の受容 4 国家主義の高まりと社会主義 5 近代的自我の成立 6 近代日本哲学の成立 7 近代日本の思想傾向への反省	○共通テスト・二次対策へ向けて傾向と分析を行い、時事問題を各自まとめる。
	2	第2章 現代の日本と日本人としての自覚	○各自受験校の過去問題等を自己分析し、傾向と対策を図る。
【課題・提出物】 特になし			

<p>【3学期の評価方法】</p> <p>①学習態度の平常点（20%以内）</p> <p>授業時などの学習過程で、観点別評価の4項目について評価する。</p> <p>課題の提出状況（期限の遵守・課題の中身）、確認テスト等の成績を評価する。</p>
<p>【年間の学習状況の評価方法】</p> <p>総合評価は、学期末ごとに行う。総合成績には平常点が含まれる。</p> <p>○平常点は以下を踏まえて、20%以内とする。（1学期のみ30%）</p> <p>①倫理に対する興味と関心</p> <p>②授業に対する意欲と関心、取り組み</p> <p>③課題等への取り組み（宿題等）</p> <p>④年数回（各定期試験後）のノート提出（板書事項・配布プリントの確認）</p>

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
関心・意欲・態度	倫理に興味・関心を持ち、自ら進んで授業に参加し、積極的に自分の考えを自分の言葉で明らかにすることができる。	○授業時の様子・取り組み・態度 ○授業ノート
思考・判断	先入観にとらわれず、公平・公正な立場から物事を考察していくことができる。	○授業時の様子・取り組み・態度 ○授業ノート ○定期試験
技能・表現	授業で得た知識をもとに、現実の事象を倫理的に解き明かすことができる。	○授業時の様子・取り組み・態度 ○定期試験
知識・理解	授業内容を適切に理解し、教科書・用語集を読みこなすことができる。	○確認テスト（不定期に実施） ○定期試験

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<p>自分でどんどん学習を進めて（予習をして）授業に臨み、復習をその日のうちにしっかり行う習慣を心掛けてほしい。</p> <p>公民科は暗記科目だと考えている人も多いと思うが、倫理は、過去に生きた人々の思想を知るだけではない。語句の暗記だけでなく、生まれ育った背景などにも関心を抱き、自分だったらどうだろうかと想像してみしてほしい。理解を深めるために、授業にとどまらず、わかりにくいところがあれば、どんどん質問に来てほしい。</p>
--

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 ~ 12	積分 入試問題演習	<ul style="list-style-type: none"> • 積分計算を通して、複雑な図形の面積や体積を求める <input type="checkbox"/> 公式をしっかりと覚え、正しく適用できる (①分析力) <input type="checkbox"/> 面積や体積を求めることができる (①分析力③目標設定力) • 進路実現に向けて、各大学の入試問題や共通テストの問題演習をする <input type="checkbox"/> 総合的に実力を伸ばす
	【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと		
	【第2学期の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。		
	【年間の学習状況の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。		
3 学 期	1 ~ 2	入試問題演習	<ul style="list-style-type: none"> • 進路実現に向けて、各大学の入試問題や共通テストの問題演習をする <input type="checkbox"/> 総合的に実力を伸ばす
	【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと		
	【第3学期の評価方法】 1、2学期までの成績を基本とする。 平常点を30%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。		
	【年間の学習状況の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	学習を通じ、数学的事象に興味・関心を持ち、級友と、自分のわからないところや説明ができるところを話し合おうとする。	提出物の状況 授業中の様子
思考・判断	身に付けた知識やテクニックを利用して、抽象的な課題、複雑な課題に取り組み課題解決を図る。	各テスト
技能・表現	数式や図形の性質や特徴を理解し、課題解決を図る。	各テスト
知識・理解	用語の定義や意味、公式、数学における基本的な概念を理解し、それを活用できる。	各テスト

4. 学習サポート(教科担当者より)

①授業について

「数学の授業と体育の授業は似ている」→自分でやらないと(間違え事をしないと)わからないし、出来るようにならない。数学で大切なのはアウトプットする事。

- 先ず手を動かす事…自分で出来る部分と出来ない部分を把握し、復習する部分を見付ける。おとなしく聞いて板書を写すことが授業を受けていることと勘違いをしない
- ノートを取るだけで満足しない…カラフルにノートをとっても意味はない。板書を写しているだけでも意味はない。
大切なのは自分で解けるようになる事
- 分からなければ誰かに尋ねる…「教え合う」事で理解度 90%。数学が苦手と自覚してる人は特に「人に尋ねる」こと心掛ける。
→win-win の関係を築く。

②学習法について

数学は復習型の教科 「授業→復習→演習→授業→復習→…」を心掛ける。

復習の仕方

- ・ その日の授業に行った問題(解きにくいと感じたもの)を解き直す(計算用紙とか要らないものでよい)その際、気付いた事や解き方のポイントなどをノートに書き込んだり付箋に書いて張り付けたり出来れば good!!→ノートにコメントを書いた分だけ自分オリジナルの参考書が作れる。
- ・ 理解が乏しければ、目印をつけ、数日後にもう一度解き直してみる。
- ・ 授業前にノートを開き、直前の内容を軽く思い出してみる。
- ・ 復習の際は、数式だけ羅列するのではなく、常に「誰かに見せるつもり、誰かに授業をするつもり(④遂行力の向上)」で書くこと。行間の日本語や途中計算をごまかさず丁寧に仕上げること。

演習の仕方…Prime や New Action Legend を中心に演習

- ・ 計算力をつけたい→PrimeA 問題
- ・ 考える力をつけたい→PrimeB 問題
- ・ Classi やロイロノートを大いに利用すること。

その他

- ・ 進路実現が最大の目標であり、そのためには大学受験を突破しなければならない。理系であれば、最終的に目指すべきところは国公立 2 次試験であり、そこで合格点を得るためには、参考書や問題集を活用して様々な解法やテクニックを自主的に身に付けること。家庭学習では「思考力を伴うような問題演習」(②翻訳力③目標設定力の向上)をメインに行うこと。
- ・ アクティブラーニングのときには「課題目標」「態度目標」を達成するのを心掛ける。積極的に他者に働きかけ、「静かに座って黙々と解く」ことをしてはならない。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
数学 B	2	3 学年	II コース理系

教科書名 数学Ⅲ Advanced

副教材名 PrimeⅢ New Action Legend II B 実力強化問題集
共通テスト過去問題集 I A II B

1. 科目目標

創造力と想像力の伸長

- ① 分析力の向上(状況判断する力)
- ② 翻訳力の向上(課題の内容を自分の言葉に言い換える力)
- ③ 目標設定力の向上(課題解決に向かってスモールステップを自分で設ける力)
- ④ 遂行力の向上(課題解決の過程を説明する力)

2. 学習計画及び評価方法

(CanDo リストになっています。単元毎に自己評価をしましょう)

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 ~ 7	数列の極限 入試対策演習	<ul style="list-style-type: none"> ・数列や関数の極限の式変形を身に付ける <input type="checkbox"/>漸化式を解くことができ、極限を求められる(①分析力) ・進路実現に向けて、各大学の入試問題や共通テストの問題演習をする <input type="checkbox"/>総合的に実力を伸ばす
		【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと	
		【第1学期の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を30%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。	

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9 ~ 12	入試対策演習	<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現に向けて、各大学の入試問題や共通テストの問題演習をする <input type="checkbox"/>総合的に実力を伸ばす

	【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと		
	【第2学期の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1 ~ 2	入試対策演習	・進路実現に向けて、各大学の入試問題や共通テストの問題演習をする <input type="checkbox"/> 総合的に実力を伸ばす
	【課題・提出物】 教科担当者の指示に従うこと		
	【第3学期の評価方法】 1、2学期までの成績を基本とする。 平常点を20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。		
	【年間の学習状況の評価方法】 定期試験の成績を基本とする。 平常点を20%以内で評価する。また、日常の授業に対する姿勢や課題の取り組み状況・確認試験の結果などによって減点をすることもある。		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	学習を通じ、数学的事象に興味・関心を持ち、級友と、自分のわからないところや説明ができるところを話し合おうとする。	提出物の状況 授業中の様子
思考・判断	身に付けた知識やテクニックを利用して、抽象的な課題、複雑な課題に取り組み課題解決を図る。	各テスト
技能・表現	数式や図形の性質や特徴を理解し、課題解決を図る。	各テスト
知識・理解	用語の定義や意味、公式、数学における基本的な概念を理解し、それを活用できる。	各テスト

4. 学習サポート(教科担当者より)

①授業について

「数学の授業と体育の授業は似ている」→自分でやらないと(間違える事をしてないと)わからないし、出来るようにならない。数学で大切なのはアウトプットする事。

- 先ず手を動かす事…自分で出来る部分と出来ない部分を把握し、復習する部分を見付ける。おとなしく聞いて板書を写すことが授業を受けていることと勘違いをしない
- ノートを取るだけで満足しない…カラフルにノートをとっても意味はない。板書を写しているだけでも意味はない。
大切なのは自分で解けるようになる事
- 分からなければ誰かに尋ねる…「教え合う」事で理解度 90%。数学が苦手と自覚してる人は特に「人に尋ねる」こと心掛ける。
→win-win の関係を築く。

②学習法について

数学は復習型の教科 「授業→復習→演習→授業→復習→…」を心掛ける。

復習の仕方

- ・ その日の授業に行った問題(解きにくいと感じたもの)を解き直す(計算用紙とか要らないものでよい)その際、気付いた事や解き方のポイントなどをノートに書き込んだり付箋に書いて張り付けたり出来れば good!!→ノートにコメントを書いた分だけ自分オリジナルの参考書が作れる。
- ・ 理解が乏しければ、目印をつけ、数日後にもう一度解き直してみる。
- ・ 授業前にノートを開き、直前の内容を軽く思い出してみる。
- ・ 復習の際は、数式だけ羅列するのではなく、常に「誰かに見せるつもり、誰かに授業をするつもり(④遂行力の向上)」で書くこと。行間の日本語や途中計算をごまかさず丁寧に仕上げること。

演習の仕方…Hi-Prime や New Action Legend を中心に演習

- ・ 計算力をつけたい→PrimeA 問題
- ・ 考える力をつけたい→PrimeB 問題
- ・ Classi やロイロノートを大いに利用すること。

その他

- ・ 進路実現が最大の目標であり、そのためには大学受験を突破しなければならない。理系であれば、最終的に目指すべきところは国公立 2 次試験であり、そこで合格点を得るためには、参考書や問題集を活用して様々な解法やテクニックを自主的に身に付けること。家庭学習では「思考力を伴うような問題演習」(②翻訳力③目標設定力の向上)をメインに行うこと。
- ・ アクティブラーニングのときには「課題目標」「態度目標」を達成するのを心掛ける。積極的に他者に働きかけ、「静かに座って黙々と解く」ことをしてはならない。

教科・科目	単位数	対象学年	対象クラス
物理	4 + 特指	3	Ⅱコース物理選択者

教科書名 改訂 物理 (東京書籍)

副教材名 ニューグローバル物理基礎+物理 (東京書籍)

共通テスト直前演習 (ラーズ) 共通テスト実践パック V (駿台文庫)

1. 教科目標

1. 物理に対する興味関心を高め、物理の基礎的な考え方を身に付ける。
2. 大学に合格するだけでなく、大学での学習・研究の基礎となる力を身に付ける。
3. 生涯にわたり必要となる科学的な知識・思考力を身に付ける。

学習した基本的な原理・法則を用いて、身近な物理的な事物・現象を物理学的に解釈し、また、物理に関わる問題に直面したときに、自分の力で解決する方法を見いだす能力と態度を身に付ける。そのために、原理や法則を単に暗記するのではなく、それらを理解させることを目的とし、法則の導出の過程を自ら探求し考える。

また、物理現象を理解するにあたり、授業を聞くだけでなく、自らの考えを自分の言葉で表現する機会を大切に、科学的な思考力を言語表現力とともに高める。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい	
1 学 期	4	3 光の性質	1 光の進み方	反射・屈折の法則について理解する。
			2 光の性質	分散・散乱・偏光について理解する。
			3 レンズと球面鏡	レンズの性質について学ぶ。
			4 光の回折と干渉	ヤングの干渉、回折格子、薄膜による干渉について理解する。
	5	1 電場	1 静電気力	クーロンの法則について学ぶ。
			2 電場	電界の概念を理解し、電界の合成や電界から電荷が受ける力について学ぶ。
			1 学期中間試験	
			3 電位	電位の概念を理解し、点電荷による電位や一様な電界における電位について理解する。
	6	2 電流	4 コンデンサー	コンデンサーが充電する電荷、たくわえるエネルギーについて学ぶ。 コンデンサーの接続について学ぶ。
			1 電流	電流の定義やオームの法則の復習をする。
2 直流回路			キルヒホッフの法則を用いて複雑な回路について解析をする。	
3 非線形抵抗			電球などの非線形抵抗について理解する。	
1 学期期末試験				
【課題・提出物】				
・確認テストおよびALリフレクションシート ・ニューグローバル物理				
【第1学期の評価方法】				
定期試験 + 平常点 (ニューグローバル物理の取り組み、授業に対する意欲・積極性)				

	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	7	3 電流と磁場	1 磁場 2 電流がつくる磁場 3 電流が磁場から受ける力 4 ローレンツ力	電場と比較しながら磁場を理解する。 電流のつくる磁界のようすを学ぶ。 磁場が電流におよぼす力について学ぶ。 運動する荷電粒子が磁場から受ける力について理解する。
	8	4 電磁誘導と電磁波	1 電磁誘導の法則 2 磁界中を運動する導体の棒 3 自己誘導と相互誘導 4 交流 5 電気振動と電磁波	ファラデーの電磁誘導の法則を理解する。 磁界中を運動する導体棒に生じる誘導起電力について理解する。 自己誘導，相互誘導，コイルがたくわえるエネルギーについて理解する。 交流が発生する仕組みを電磁誘導の法則から理解する。 交流における抵抗，コンデンサー，コイルのはたらきについて理解する。 振動回路，共振，電磁波の発生とその性質について理解する。
	9	1 電子と光	1 電子の電荷と質量 2 光の粒子性 3 X線 4 粒子の波動性	陰極線の性質について理解する。 ミリカンの実験について理解する。 光電効果について理解し，光子仮説について考える。 X線の波動性と粒子性について理解する。 波動と粒子の二重性について理解する。
	10	2 原子・原子核素粒子	1 原子モデル	ボーアの原子モデルから量子条件について理解する。
			2 放射線と原子核	放射線の性質と原子核の崩壊について理解する。
			3 原子核反応	質量とエネルギーの等価性について理解する。 核分裂と核融合について理解する。
			4 素粒子と宇宙	素粒子の分類，性質について理解する。
	11	2学期中間試験 ◆ 問題演習	一般入試に向け，実践問題演習を行う。	
	12	2学期期末試験 入試問題実践演習	大学入学共通テストに向け，実践問題演習を行う。 国公立大学入試に向け，入試問題演習を行う。	
	【課題・提出物】 ・確認テストおよびALリフレクションシート ・ニューグローバル物理 ・夏期休業中課題			

	【第2学期の評価方法】 定期試験 + 平常点 (課題への取り組み, 授業に対する意欲・積極性)	
	月	学習内容
3 学 期	1	大学入学共通テスト対策演習
	2	国公立2次試験・私立大入試対策演習
		学習のねらい
		大学入学共通テストに向け, 実践演習を行う
		入試に向けて問題演習を行う。
	【課題・提出物】 ・確認テストおよびALリフレクションシート ・冬期休業中課題	
	【第3学期の評価方法】 定期試験 + 平常点 (課題への取り組み, 授業に対する意欲・積極性)	
	【年間の学習状況の評価方法】 定期試験 + 平常点 (課題への取り組み, 授業に対する意欲・積極性)	

3. 評価の観点, 内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	・自然現象に関心をもち, 科学的な見方をしているか。 ・授業に意欲的に参加し, 論理的に探究しようとする態度が見えるか。	学習活動への参加の仕方や態度 演習プリントへの取り組み
思考・判断	・さまざまな物理現象を論理的に考察・分析し, その本質を原理や法則から説明できるか。	グループ活動への取り組み 定期試験演習プリント
技能・表現	・グループ活動(AL)において, 物理の法則や原理, 課題の解法についての的確に表現する方法を習得しているか。 ・課題や実験のレポートにおいて, 的確に表現する方法を習得しているか。	ALの振り返りシート 定期試験
知識・理解	・学習活動を通して, さまざまな自然現象の背景には原理や法則があることを理解できたか。 ・自然現象を定量的に考察するため, 物理的な概念や法則を正しく理解できたか。	・定期考査 ・確認テスト

4. 学習サポート

<p>1. 日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味をもち, その法則性について考える態度を身につけましょう。</p> <p>2. 物理法則の導出過程を大切に, 論理的な思考力を高めよう。</p> <p>3. クループ活動・討論をしながら, 学び合い・教え合う姿勢を身につけましょう。</p> <p>4. 繰り返し演習に取り組み, 徹底して基礎を定着させましょう。</p> <p><定期試験に向けて></p> <p>1. 演習プリントで基礎の確認。(教科書, 授業プリントの見直し)</p> <p>2. ニューグローバル物理を2~3周。</p> <p><模試に向けて></p> <p>1. ニューグローバル物理でしっかり復習。</p> <p>2. 過去問題で実践演習。テスト形式で行い, 自己採点をして解き直し。</p>
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
化 学	4	3	Ⅱコース・理系クラス

教科書名 化学(実教出版)

副教材名 ビーライン化学(第一学習社) 進研共通テスト直前演習 化学

1. 科目目標

化学的な物事、現象に関する基本的な原理、法則、語句の意味を理解し、身の回りの物事、現象を化学的に探求する方法を身につける。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	2章 物質の変化と平衡 4節 化学平衡 1. 可逆反応と化学平衡	<ul style="list-style-type: none"> ・反応には、正反応と逆反応、可逆反応と不可逆反応があることを学習する。 ・化学平衡とはどのような状態か理解する。 ・化学平衡(質量作用)の法則と平衡定数、固体が関係する反応の平衡定数を求める力を育成する。 ・圧平衡定数と濃度平衡定数の関係性について学習する。
		2. 平衡移動	<ul style="list-style-type: none"> ・ルシャトリエの原理について学習する。 ・濃度変化、圧力変化、温度変化、触媒を加えたとき等の状態の変化により起こる平衡移動について学習する。
		3. 平衡移動と化学工業	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーバーボッシュ法を例にとり、化学工業と化学平衡の関係性について学習する。
	5	4. 電解質水溶液の平衡	<ul style="list-style-type: none"> ・電離平衡と電離定数、酸の電離定数、塩基の電離定数、電離度と電離定数を求める力を育成する。 ・水の電離平衡を理解し、pHの値を求める力を育成する。
		5. 緩衝液とpH	<ul style="list-style-type: none"> ・塩の加水分解と水溶液の性質について学習する。 ・緩衝作用とは何か理解する。 ・緩衝液とpHの関係を学習する。 ・難溶性塩の溶解と溶解度積、溶解平衡と沈殿生成、共通イオン効果、溶解平衡と金属イオンの分離を学習する。

	<p>3章 無機物質</p> <p>1節 周期表</p> <p>1 周期表と元素の分類</p> <p>2節 非金属元素</p> <p>1 水素と貴ガス</p> <p>2 ハロゲンとその化合物</p> <p>3 酸素、硫黄とその化合物</p> <p>4 窒素、リンとその化合物</p> <p>5 炭素、ケイ素とその化合物</p> <p>1学期中間試験（20時間）</p> <p>3節 金属元素</p> <p>1 アルカリ金属とその化合物</p> <p>2 アルカリ土類金属とその化合物</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 周期表の構成と単体の性質について理解する。メンデレーエフの功績について学習する。 • 各族ごとの単体と代表的な化合物の性質について学習する。 • 気体の製法および性質について学習する。 • 工業的製法について学習する。 <p>反応の仕組み、製造工程、これに伴った生産量の算出について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 各族ごとの単体と代表的な化合物の性質について学習する。 • 両性元素について学習する。
6	<p>3 1, 2 族以外の典型金属元素とその化合物</p> <p>4 遷移元素とその化合物</p> <p>5 金属イオンの分離と確認</p> <p>4節 無機物質と人間生活</p> <p>1 金属の利用</p> <p>2 無機物質の利用</p> <p>3 無機物質と生体</p> <p>4章 有機化合物</p> <p>1節 有機化合物の特徴と構造</p> <p>1 有機化合物の特徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 遷移元素の特徴について学習する。 • 金属イオンの定性反応を理解し混合溶液からの分離について学習する。 • 軽金属と重金属，卑金属と貴金属，金属の製錬について学習する。 • ケイ酸塩工業（窯業）について学習する。 • 官能基による有機化合物の分類。表し方を学習する。
7	<p>2節 脂肪族炭化水素</p> <p>1 飽和炭化水素</p> <p>2 不飽和炭化水素</p> <p>1学期期末試験（24時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> • アルカンの構造式を書き構造異性体を理解置換反応を学習する。 • アルケンの構造式を書き幾何異性体を理解する。 • アルケン，アルキンの付加反応を学習する。
8	<p>夏期進学講座</p> <p>3節 酸素を含む脂肪族化合物</p> <p>1 アルコールとエーテル</p> <p>2 アルデヒドとケトン</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 代表的な有機化合物を暗記し利用できるようにする。 • アルコールを中心とした有機化合物の系統図を

		3 カルボン酸とエステル	<p>書ける力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エステルの反応機構を理解する。 ・油脂の構造について学習する。
		<p>【課題・提出物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート 	
		<p>【第1学期の評価方法】</p> <p>① 定期試験の成績（70%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解の確認とともに、化学的思考について問う問題も出題する。 <p>② 学習態度等の平常点（30%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の学習過程で評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。 	
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<p>1節 有機化合物の特徴と構造</p> <p>2 有機化合物の構造式の決定</p> <p>4節 芳香族化合物</p> <p>1 芳香族炭化水素</p> <p>2 酸素を含む芳香族化合物</p> <p>3 窒素を含む芳香族化合物</p> <p>4 混合物の分離</p> <p>5節 有機化合物と人間生活</p> <p>1 エネルギーの利用</p> <p>2 洗剤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・燃焼分析の実験操作、未知試料の有機化合物の構造決定について学習する。 ・ベンゼンを中心とする芳香族炭化水素の構造および性質、反応性について学習する。 ・元素分析による有機化合物の構造決定について学習する。 ・芳香族化合物の混合物の分離について学習する。 ・薬理作用、生薬、人工薬品としてのアスピリンについて学習する。
	10	<p>3 染料と染色</p> <p>4 医薬品</p> <p>5 有機化合物と生体</p> <p>2学期中間試験（24時間）</p> <p>5章 高分子化合物</p> <p>1節 高分子化合物</p> <p>1 高分子化合物の分類と特徴</p> <p>2節 天然高分子化合物</p> <p>1 糖</p> <p>2 タンパク質</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・染料と顔料、天然染料と合成染料、アゾ染料について学習する。 ・界面活性剤と合成洗剤について学習する。親水性、親油性基について確認し、汚れが落ちる仕組みについて理解する。 ・有機高分子と無機高分子の違いを理解する。 ・天然高分子と合成高分子について概要を理解する。 ・単糖類、二糖類と六炭糖と五炭糖・デンプン、グリコーゲン・アミノ酸の性質、反応 タンパク質の種類、構造、反応について理解する。

2 学 期	11	<p>3 核酸</p> <p>3節 合成高分子化合物</p> <p>1 合成高分子化合物の分類</p> <p>2 合成繊維</p> <p>3 合成樹脂(プラスチック)</p> <p>4 機能性高分子化合物</p> <p>5 ゴム</p> <p>4節 高分子化合物と人間生活</p> <p>1 繊維</p> <p>2 機能性高分子</p> <p>12 3 資源の再利用</p> <p>2学期期末試験 (26時間) 共通テスト対策演習 一般試験、二次試験対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・核酸の構成について理解する。 ・合成方法の違いと生成物について理解し分類できる力を身につける。 ・プラスチックの分類について理解する。 ・代表的な機能性高分子と性質について理解する。(イオン交換樹脂、導電性高分子など) ・天然ゴム、合成ゴムとその性質について比較しながら理解する。 ・天然繊維と化学繊維について整理する。 ・繊維強化プラスチック、接着剤・リユース、マテリアルリサイクルについて理解する。
	12		<ul style="list-style-type: none"> ・単元別、時間をはかりながら、実践的な演習を行う。
【課題・提出物】			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に配布する演習プリント ・授業ノート ・夏季休業中の課題 			
【第2学期の評価方法】			
<p>① 定期試験の成績 (70%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解の確認とともに、化学的思考について問う問題も出題する。 <p>② 学習態度等の平常点 (30%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の学習過程で評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。 			
月	学習内容		学習のねらい
3 学 期	1	<p>共通テスト対策演習</p> <p>一般試験、二次試験対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間をはかりながら、実践的な演習を行う。
【課題・提出物】			
<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に配布する演習プリント 			
【第3学期の評価方法】			
<p>① 学習態度等の平常点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の学習過程で評価の観点の4項目について評価する。 ・課題の提出状況・小テストの成績を総合して評価する。 			
【年間の学習状況の評価方法】 各学期の成績を総合して評価する。			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	・自然の事物・現象に関心や探求心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子 ・授業ノート

	<ul style="list-style-type: none"> 付けている。 講義式, 実験式いずれの授業においても集中力を保つ。 授業で得た結果を基に発展的な興味をもって自主的活動を行う。 	
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象の中に問題を見だし, 探究する過程を通して, 事象を科学的に考察し, 導き出した考えを的確に表現している。 授業内容について科学的な捉え方ができる。 授業の成果をいかして社会や生活との関連を考えられる。 発展的な内容についても思考を展開させられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の様子 授業ノート 小テスト 定期テスト
技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 観察, 実験を行い, 基本操作を習得するとともにそれらの過程や結果を的確に記録, 整理し, 自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 操作の意味をよく理解し, 実技のレベルが的確である。 実験結果に対する考察が十分であり, その内容を適切に伝達できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の様子 授業ノート 小テスト 定期テスト
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象について, 基本的な概念や原理・法則を理解し, 知識を身に付けている。 学んだ内容が関連付けて整理され定着している。 知識を用いて発展的な応用ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の様子 小テスト 定期テスト

4. 学習サポート (事前・事後学習等について)

随時、学習相談を実施しているので、つまづいている箇所があれば早めに質問しに来てほしいです。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
生物	4 + 特指	3 学年	II コース理系

教科書名 生物 (数研出版)

副教材名 スクエア最新図説 (第一学習社) セミナー生物 (第一学習社)

1. 科目目標

1. 「生物」の面白さを知る

「生物」という科目では、生命現象のしくみや生命同士のつながり、生命の歴史について学ぶ。これらは、生命のひとつである「自分自身」を知ること・理解することであり、考えることだ。生命の神秘さ、面白さを実感する。

2. 学力をつける

大学入学共通テスト、国公立大学個別試験、私立大学一般試験に対応できる学力を構築する。

3. 客観的な視点を育む

「生物」の学びを通して、「自分自身」や「自分自身をとりまく世界」を客観的に理解する視点を育む。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	第3編 生物の環境応答 第5章 動物の反応と行動 1. ニューロンと興奮 2 刺激の受容 3. 情報の統合 4. 刺激への反応 5. 動物の行動	ニューロン (神経細胞) の基本的な構造とそのはたらきを理解する。次の、受容器で受け取られた刺激 (情報) が、神経系を介して、効果器へと至る経路を学習する。
	5	1 学期中間試験 [25 時間]	
	6	第6章 植物の環境応答 1. 植物の生活と環境応答 2. 発芽の調節 3. 成長の調節 4. 環境の変化に対する応答 5. 花芽形成・結実の調節 1 学期期末試験 [20 時間]	植物は成長を調節するなどして環境に応答していることを理解する、そのうえで、環境応答にはさまざまな植物ホルモンや光受容体が関与していることを学習する。
【課題・提出物】 ・セミナー生物 (定期試験範囲、月別範囲)			
【第1学期の評価方法】			
① 定期試験の成績 (70%) ② 学習態度等の平常点 (30%)			

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	第4編 生態と環境 第7章 生物群集と生態系 1. 個体群 2. 個体群内の個体間関係 3. 異種個体群間の関係 4. 生物群集 5. 生態系における物質生産 6. 生態系と生物多様性	個体群や生物群集について、それぞれの特徴を学習する。特にそれぞれの個体群は、生態系内で特定の役割を果たしていることを理解する。また、生態系における物質生産についても学習する。さらに、生物多様性に影響を与える要因を理解し、生物多様性の重要性を学ぶ。
	10	第5編 生物の進化と系統 第8章 生命の起源と進化 1. 生命の起源と初期の生物の変遷 2. 多細胞生物の変遷 3. 進化とそのしくみ 2学期中間試験 [25時間]	生命の起源および生物の変遷を学習する。その際、生命の誕生や生物の変遷は、地球環境の変化と密接に関係していることを理解する。
		第9章 生物の系統 1. 生物の系統 2. 生物の多様性	生物の種類は多様であるが、それらが系統によって分類できることを理解する。その際、形態的な特徴にもとづいた分類ばかりでなく、近年では、DNAの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列などの分子データにもとづいて系統関係が調べられていることについても学ぶ。
	11	大学入学共通テストに向けた演習 プレ問題、過去問題、演習	
	12	2学期期末試験 [30時間]	
【課題・提出物】 ・セミナー生物（定期試験範囲、月別範囲）			
【第2学期の評価方法】 ① 定期試験の成績 (80%) ② 学習態度等の平常点 (20%)			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	大学入学共通テストに向けた演習 プレ問題、過去問題、演習 国公立大学個別試験に向けた演習 3学期授業時間 [6時間] 年間実授業時間 [106時間]	
【年間の学習状況の評価方法】 ①定期試験の成績 (80%) ②平常点 (20%)			

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート
思考・判断	生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を化学的にとらえられる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・授業ノート ・定期テスト
技能・表現	科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果を導き出すことができる。また、それを表現することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の様子 ・定期テスト
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。 ・自然界の様々な事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養が身につけられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> ・随時、学習相談を実施していますので、理解の難しい所、つまづいている箇所があれば、早めに解決しましょう。
--

教科・科目	単位数	対象学年	対象クラス
体育	3	3	I・IIコース共通

教科書名 現代高等保健体育

副教材名 現代高等保健体育ノート

1. 教科目標

生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため

- (1) 運動の多様性や体力の必要性を理解し、それらの知識・技能を身に付ける。
- (2) 自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 健康・安全を確保し、運動に親しむ態度を養う。

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	集団行動 ①挨拶・集合・体形 ②方向変換・列の増減 体づくり運動・体育理論（通年で行う） (1) 体づくり運動 ①体ほぐしの運動 ②実生活に生かす運動の計画 (2) 体育理論 スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展（1年次） 運動やスポーツの効果的な学習の仕方（2年次） 豊かなスポーツライフの設計の仕方（3年次） 陸上競技〔走〕ア競争 ①短距離走 ②持久走	<ul style="list-style-type: none"> ・集団の一員として迅速に、かつ安全に行動できる力を身に付ける。 ①のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気付きや関わり合うことを身に付ける。 ②健康に生活をするための体力の向上、運動を行うための体力の向上を図る運動の計画と実践に取り組む姿勢を養う。 ・以下4項目に関し、体育実技の実施と関連させながら学習する。 ①スポーツの歴史的発展と多様な文化 ②現代スポーツの意義や価値 ③スポーツの経済的効果と高潔さ ④スポーツが環境や社会にもたらす影響 ・2年次までの学習を踏まえて、記録の向上や競争の楽しさを味わう。 ・ルールマナーを大切にし、役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たすことに意欲を持って取り組む。 ・毎年継続して記録する、スポーツテスト〔走〕の種目の自己の目標達成及び記録向上を目指す。

	<p>スポーツテスト（新体力テスト） 種目：握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・持久走・50m走・立ち幅跳び・ハンドボール投げ</p> <p>ソフトテニス</p> <p>① オリエンテーション</p> <p>② グランドストローク (フォア・バック・ロブ)</p> <p>③ バックハンド</p> <p>④ サービス</p> <p>⑤ ルール</p> <p>⑥ ゲーム（簡易ゲーム・ダブルス）</p> <p>理論 ソフトテニスの特性・ルール・試合運営などを学ぶ</p>	<p>・自分の今持っている体力を知り日常の運動の習慣を身につけ、生涯スポーツに繋がる土台を養う。</p> <p>ソフトテニスの基礎技術を身につけ、ネット型スポーツの特性を理解する。 (生徒自らが)主体的にゲームを中心とした活動が出来る力を育成する。 フォアハンド、ロブを重点に習得し、ラリー（乱打）を継続できる力を身に付ける。 バックハンドの技術, およびサービスを狙った所へ打つことの出来る力を身につける。 生徒の技量に合わせた内容で試合（簡易ゲーム含）が出来る力を身に付ける。</p> <p>生涯スポーツの選択肢の一つとして、ソフトテニスも含まれるような知識、技能を習得する。</p>
<p>【課題・提出物】 期末試験前後にソフトテニスに関するレポート・小テストを実施する。</p>		
<p>【第1学期の評価方法】</p> <p>1. 実技試験（60%）</p> <p>①ソフトテニスの基礎技術に関する試験を実施する。 グランドストローク（フォア・バック）、サービス、簡易ゲームによる技術的評価</p> <p>②スポーツテスト（新体力テスト）</p> <p>・50m走、持久走、ハンドボール投げ、反復横とび、長座体前屈、握力、上体起こし、立ち幅跳び ※実施時間数によって上記種目から選択をし、評価に加える。</p> <p>2. 授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点（40%）</p> <p>・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。 ・ルール等の確認テスト。</p>		

	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	<p>体づくりの運動</p> <p>① 体ほぐしの運動</p> <p>② 体力を高める運動</p>	<p>長期休業後の体力回復、怪我、病気等の予防につながる力を養う。</p> <p>特に柔軟・心肺機能の向上を目的とする。</p>

	10 11 12	〔球技選択〕 バスケットボール バレーボール サッカー ソフトボール等 ・ゲーム・簡易ゲーム形式中心で実施 体育理論 ・実施する種目のルール・技術の知識の習得	今まで学んできた球技を中心とした種目を、競技レベルに合わせた内容で、自らが主体的となって種目（授業）を展開する力を身に付ける。 生涯スポーツにつなげられるよう、多岐にわたる種目を選択・実施する。 実施する種目ごとに基礎的スキル・ルール、ゲームの進め方についての知識・技能を習得する。
	【課題・提出物】 期末試験前後に選択種目内から選び、レポート・小テストを実施する。		
	【第2学期の評価方法】 ①実技試験（60%） ・主とする実施種目への取り組み及びスキル評価表を基に評価する。 ※選択種目等により評価の違いが出ないように、教科会で審議の上、内容を決定する。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%) ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	〔球技選択〕	授業を通じて仲間との協力、協調、楽しさや喜びを学習する。 種目のルール、試合運営を学び、仲間と協力してゲームを進める力を身に付ける。
	【課題・提出物】 なし		
	【第3学期の評価方法】 ①実技試験・授業への取り組み（60%） ・主とする実施種目への取り組みを基に評価をする。 ②授業態度・意欲・服装・出席状況・ルール小テストなど学習態度等の平常点(40%) ・積極的に授業へ参加し、準備や片付けも協力してできる。 ・正しい服装で授業へ参加できている。		
	【年間の学習状況の評価方法】 1学期末と2学期末に進学用の仮評定を算出する。 学年末の評定（評価）は1学期・2学期・3学期の実技の平均（60%） 年間の授業態度・意欲・服装・出席状況（40%） 上記を総合的に判断して評価をする。		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	欠席が少なく、授業への積極的参加ができる。 安全に配慮し主体的に取り組むことができる。 多様性を理解し仲間と協力することができる。 健康・安全に配慮した服装でできる。	観察
思考・判断	自己や仲間の状況に応じて体力向上を目的とした運動を継続できるような計画が工夫できる。 課題解決のために身に着けた技能を生かすことができる。	観察
技能・表現	各運動の特性に応じ勝敗を競い合う、攻防が展開できる。 実施する種目の特性に応じ段階的な技能を身に付け、自分が表現したいことができる。	実技テスト 観察
知識・理解	選択した運動の技術（技）の名称やルールを学び、主体的に試合をすすめることができる。 簡易ゲーム、ミニゲームを運営し、審判などでゲームを進めることができる。	小テスト 観察

4. 学習サポート

実技科目の特性上、基本は授業内で実施をするが、必要性や状況に応じて対応をする。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
コミュニケーション英語Ⅲ	4	3	Ⅱコース

教科書名 Revised POLESTAR English Communication Ⅲ (数研出版)

副教材名 駿台共通テスト対策過去問題集 (駿台文庫)

2024 大学入学共通テスト対策・オリジナル問題集 共通テスト英語 40 分プレノート
(数研出版)

NEO 現代を見る (いいずな)

英単語ターゲット 1400 (旺文社) 英文で覚える 英単語ターゲット 1400R (旺文社)

1 科目目標

単語、熟語、文法、文構造の把握を通して長文を理解する。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	○Lesson 1 The Future of Nursing-Care Robots	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルから本文の内容を推測する。 ・単語、熟語、文法、文構造の把握を通して本文の内容を正しく理解する。 ・本文の内容を正しく理解できているかをコミュニケーション活動を通して確認する。
	5	○Lesson 2 Making English the Official Language in the Office	
	6	○Lesson 3 An Appalling Waste of Food ○Lesson 4 Mastering the Art of Living	
	7	1 学期末試験	
【課題・提出物】 小テスト、特別指導英語や休業期間中等に使用する副教材			
【1 学期の評価方法】 素 点：70% (1 学期中間試験、1 学期末試験) 平常点：30% (課題・提出物等)			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	○Lesson 5 Understanding Communication without Words	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルから本文の内容を推測する。 ・単語、熟語、文法、文構造の把握を通して本文の内容を正しく理解する。

	10	○Lesson 6 How to Make Japan “Cool” 共通テスト英語 40 分プレノート 駿台共通テスト対策過去問題集 2 学期中間試験	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容を正しく理解できているかを確認する。 ・時間制限や分量、読む目的を意識して問題に取り組む。
	11	○Lesson 7 The Growth of Dictionaries in Japan	
	12	○Lesson 8 Questions without Correct Answers 2 学期末試験	
【課題・提出物】 小テスト、特別指導英語や休業期間中等に使用する副教材			
【2 学期の評価方法】 素 点：80%（2 学期中間試験、2 学期末試験） 平常点：20%（課題・提出物等）			
	月	学習内容	学習のねらい
3 学期	1	駿台共通テスト対策問題集 大学入学共通テスト 入試対策	<ul style="list-style-type: none"> ・時間制限や分量、読む目的を意識して問題に取り組む。
	2		
	3		
【課題・提出物】 特別指導英語や休業期間中等に使用する副教材			
【3 学期の評価方法】 素 点：80%（1 学期中間試験、1 学期末試験、2 学期中間試験、2 学期末試験） 平常点：20%（課題・提出物等）			
【年間の学習状況の評価方法】 素 点：80%（定期試験の素点の平均点） 平常点：20%（平常点の平均点）			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
関心・意欲・態度	単元毎のテーマに関心を持ち、自ら学習に取り組むことができる。	授業態度、小テスト、定期試験
思考・判断	自ら考え、意見を持っている。	授業態度
技能・表現	英語で表現することができる。	小テスト、定期試験
知識・理解	英語を正しく理解することができる。	小テスト、定期試験

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

知識を増やすことは大切です。読む目的を意識して、知識を正しく使いこなせる状態を目指してください。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
英語表現Ⅱ	2	3	Ⅱコース

教科書名 Vision Quest English Expression Ⅱ Ace (啓林館)

副教材名 スクランブル英文法・語法 4th Edition (旺文社)

スクランブル英文法・語法 準拠トレーニング問題集 (旺文社)

1 科目目標

文法と文構造を徹底的に理解する。また、英文を見た瞬間にその内容をイメージできる。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	Vision Quest Lesson 4、5 動詞を決める	<ul style="list-style-type: none"> ・文型の知識を確認する。 ・文法の基本を確認する。 ・構文を確認する。
	5	スクランブル問題集 第1章～第3章 時制、受動態、助動詞	
		1学期中間試験	
	6	第4章～第6章 不定詞、動名詞、分詞	
	7	1学期末試験	
【課題・提出物】 小テスト、特別指導英語や長期休業期間中等に使用する副教材			
【1学期の評価方法】 素 点：70%（1学期中間試験、1学期末試験） 平常点：30%（課題・提出物）			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	第24-1・2章 動詞中心のイディオム 第21章 重要同意語	<ul style="list-style-type: none"> ・イディオムを身につける。 ・パラフレーズを理解する。
	10	2学期中間試験	
	11	第24-3・4章 章動詞中心のイディオム	

	12	第22章 重要多義語 2学期末試験	
	【課題・提出物】 小テスト、特別指導英語や長期休業期間中等に使用する副教材		
	【2学期の評価方法】 素点：80%（2学期中間試験、2学期末試験） 平常点：20%（課題・提出物）		
	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	大学入学共通テスト対策 大学入学共通テスト	・時間制限や分量、読む目的を意識して問題に取り組む。
	2	入試対策	
	3		
	【課題・提出物】 特別指導英語や休業期間中等に使用する副教材		
	【3学期の評価方法】 素点：80%（1学期中間試験、1学期末試験、2学期中間試験、2学期末試験） 平常点：20%（課題・提出物）		
	【年間の学習状況の評価方法】 素点：80%（定期試験の素点の平均点） 平常点：20%（平常点の平均点）		

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
関心・意欲・態度	単元や出題形式に沿って、自ら学習に取り組むことができる。	授業態度、小テスト、定期試験
思考・判断	自ら考え、意見を持っている。	授業態度
技能・表現	英語で表現することができる。	小テスト、定期試験
知識・理解	英語を正しく理解することができる。	小テスト、定期試験

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

短時間で文の内容を理解して問題を解くために、1つずつ丁寧に覚えてください。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
英語表現Ⅱ演習	1	3	Ⅱコース

副教材名 リスニング・エース 10 UPGRADED 改訂版 (美誠社)

共通テストリスニング実践 30分 (エミル出版)

1 科目目標

音声知覚と意味理解を通して、リスニングの力を養成する。

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	リスニング・エース	<ul style="list-style-type: none"> ・出題形式を理解する。 ・音声の聞き方を理解する。 ・メモの取り方を身につける。 ・解答の根拠を聞き取る。
		ミニテスト 1～16	
	5	ミニテスト 25、26	
	6 7		
		【課題・提出物】 小テスト	
		【1学期の評価方法】 英語表現Ⅱの平常点に加える。	
2 学 期	9	リスニング・エース	<ul style="list-style-type: none"> ・解答の根拠を聞き取る。 ・30分のリスニングの時間に慣れる。
		ミニテスト 17～24	
	10	共通テストリスニング実践 30分	
	11 12	第1～6回	
		【課題・提出物】 小テスト	
		【2学期の評価方法】 英語表現Ⅱの平常点に加える。	
3 学 期	1	共通テストリスニング実践 30分	<ul style="list-style-type: none"> ・音声の聞き方、メモの取り方を確認する。
		第7回 大学入学共通テスト	

2		
3		
【課題・提出物】 特別指導英語や休業期間中等に使用する副教材		
【3学期の評価方法】 英語表現Ⅱの平常点に加える。		
【年間の学習状況の評価方法】 英語表現Ⅱの平常点に加える。		

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
関心・意欲・態度	英語を聞いて、積極的に理解しようとする。	授業態度
思考・判断	自ら考え、意見を持っている。	授業態度
技能・表現	自分の考えを表現することができる。	課題
知識・理解	聞こえてくる英語の内容がわかる。	授業態度、小テスト

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

単語の発音、音の変化を知らなければ、話の内容はわからないままです。英語の音を聞き分け、その音が意味する内容を理解してください。

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
情報の科学	1	3 学年	I・IIコース

教科書名 情報の科学（日本文教出版）

副教材名 情報モラル（数研出版）

1 科目目標

- | |
|---|
| <p>① 現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を、科学的な見方・考え方で理解し習得する。また情報を利用する上で大切なモラルの向上を目指す。</p> <p>② 各種情報機器やインターネットの利用を通じて、科学的思考力や判断力などを養う。</p> <p>③ 各種プログラミングを通じて問題解決能力を身に付ける。</p> |
|---|

2 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ガイダンス ● PC・教室利用について ● PCの個人設定 ● タイピング 	<ul style="list-style-type: none"> ・PCの個人設定を行い、利用環境を整える。 ・タイピングソフトの利用の仕方を確認し、タイピングに取り組む。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ➤ アルゴリズムとプログラミング JavaScript ● 処理手順 ● いろいろなアルゴリズム 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの流れを構造的に図示できるフローチャートや処理手順について理解する。 ・JavaScriptプログラミングを行い、動作させることができる。
	6	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ネットワークの動作としくみ ● 通信の仕組み ● IPアドレス、ホスト名 ● プロトコル ● インターネットの仕組み ● ドメイン名 ● DNSサーバの役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信に必要な知識や用語を理解し、その仕組みや役割について理解できる。 ・インターネットの仕組みや各種機器の役割を理解し、実際に通信するための情報をネットワークから取得できる。
	7	1 学期期末試験	
<p>【課題・提出物】 授業で配布する資料プリント、授業ノート 実技演習課題</p>			
<p>【1 学期の評価方法】</p> <p>① 学期末試験 50% 1 学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。 知識・理解の確認とともに、タイピングの知識などを見る問題も出題する。</p> <p>② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。</p> <p>③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。</p>			

	月	学習内容	学習のねらい	
2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ➤ インターネット ● WWW について ● URL の概念 ● Web ページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Web ページが閲覧できる仕組みを知り，Web サイトを表す URL の構造や意味を理解する。 ・ Web ページを便利に利用するため，検索サイトの構造や使用法について理解する。 ・ インターネットを利用した犯罪や脅威について理解する。 ・ インターネットや情報を安全に利用できるような仕組みについて理解し，安全な利用法について理解する。 ・ 不正なアクセスやなりすましなどから情報を守るセキュリティ技術について理解し，安全に情報を管理し利用しようとする意識を持つ。 	
	10	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報セキュリティ 1 ● 不正アクセス ● ファイアウォール ● コンピュータウイルス ● スパイウェア 		
		<ul style="list-style-type: none"> ➤ 情報セキュリティ 2 ● 情報の暗号化の仕組み ● 共通鍵暗号方式 ● 公開鍵暗号方式 ● 電子署名，ハイブリッド暗号方式 		
	11	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 表計算ソフト ● 表計算ソフトの基礎 ● 計算式 ● 基本の関数 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く一般に利用されている表計算ソフトの使い方を理解し，計算式や関数を使用して計算の自動化ができる。
	12	2 学期期末試験		
<p>【課題・提出物】 授業で配布する資料プリント，授業ノート 実技演習課題</p>				
<p>【2 学期の評価方法】</p> <p>① 学期末試験 50% 2 学期期末試験のみ筆記試験を行う。中間試験は行わない。 知識・理解の確認とともに，タイピングの知識などを見る問題も出題する。</p> <p>② 実習課題等 30% 実習時の演習課題ならびにタイピングの能力を評価する。</p> <p>③ 平常点 20% 課題の提出状況やノートの確認を通して評価する。</p>				

	月	学習内容	学習のねらい
3 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 表計算ソフト ● いろいろな関数 ● グラフ表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトで使用できる便利な関数について知識を深める。 ・グラフ作成の技術を身に付ける。
	【課題・提出物】 実技演習課題		
	【3学期の評価方法】 1学期と2学期の学期末試験をあわせて評価する。		
【年間の学習状況の評価方法】 1学期末と2学期末の成績を統合して評価する。			

3 観点別評価内容および評価方法

	観点別評価内容	評価方法
関心・意欲・態度	情報に関わる内容に興味を持ち、進んでタイピングやプログラミング等の実習に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・タイピングテスト ・プログラミング ・授業時の取り組み
思考・判断	モラルやセキュリティに興味を持ち、情報を正しく判断できる。 処理手順を理解し適切なプログラムを構築できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実技演習課題 ・プログラムエラー処理
技能・表現	プログラミング、エラー処理等の一連の作業ができ、プログラムを動作させることができる。またブラインドタッチなどの技能を修得し、すばやい入力ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムエラー処理 ・実技演習課題
知識・理解	情報に関する知識や用語の意味を知り、適切に利用できる。また OS やアプリケーションソフトの使い方を理解できる。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノート ・実技演習課題

4 学習サポート（事前・事後学習等について）

<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータリテラシーとしてタイピング技術を身につけ、ブラインドタッチに挑戦しましょう。 ・実技については、毎時間課題を課し、時間ごとの内容を確認するのもしっかり覚えましょう。
--

科 目	単位数	対象学年	対象クラス
総合探究	1	3年生	全

教科書名 なし ※プリント学習
副教材名 なし _____

1. 科目目標

- | |
|--|
| <p>① Use active learning to foster independent thinking in a group setting.
② Cooperate with class members to solve problems through discussion.
③ Present individual and group ideas in front of the class.</p> |
|--|

2. 学習計画及び評価方法

	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	Task 1 What' s cooking?	Instructing others Presenting in front of other people
	5	Task 2 Class Survey	Creating and conducting a survey Reporting and presenting findings
	6		
	7	GTEC Practice and Strategies	Practicing for the GTEC test
【課題・提出物】 N/A			
【1学期の評価方法】 Observation by homeroom teacher			
	月	学習内容	学習のねらい
2 学 期	9	Task 3 My Prized Possession	Presenting individually about a possession, describing it and explaining why it is important to you
	10	Task 4 Nandemokantedan	Presenting an item to other groups Understand descriptions in order to choose wisely as a group
	11		
	12	Task 5 Work, Work, Work	Choosing the right person for an occupation through group discussion Stating reasons for opinions
		GTEC Practice and Strategies	Practicing for the GTEC test

	【課題・提出物】 N/A	
	【2学期の評価方法】 Observation by homeroom teacher	
	月	学習内容
3 学 期	1	Task 6 Revitalizing Fukushima
		学習のねらい
		Designing a project to revitalize Fukushima Giving reasons and explaining ideas in a presentation
	【課題・提出物】 N/A	
	【3学期の評価方法】 Observation by homeroom teacher	
【年間の学習状況の評価方法】 Observation by homeroom teacher		

3. 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	Participation in group discussions	Observation by homeroom teacher
思考・判断	Sharing thoughts in presentations	Observation by homeroom teacher
技能・表現	Smoothness in presentation	Observation by homeroom teacher
知識・理解	Content of discussions and presentations	Observation by homeroom teacher

4. 学習サポート（事前・事後学習等について）

Try to speak only in English.
Say at least a few things in English every week.
Use a dictionary every lesson.
Try your best!